

FRB、3月の利上げを示唆

ポイント① 3月の利上げ開始を示唆

1月25、26日開催のFOMC（米連邦公開市場委員会）では当初の予定通り、2022年3月に開催される次回FOMCで、量的緩和を終了すると発表されました。また、まもなく利上げに適切な条件が揃うとし、同会合での利上げも示唆されました。この数ヵ月で米国の労働市場における失業率は低下しており、人手不足から賃金上昇圧力も増していることから、FRB（米連邦準備制度理事会）はインフレを警戒しています。一方で、今回は利上げの回数と幅の程度については言及されませんでした。新型コロナウイルスの新たな変異株出現が経済に与える影響を懸念しているようです。

ポイント② 足元ではインフレの長期化が続く

米国では依然としてインフレが過熱しています。新型コロナウイルスの感染再拡大に伴うサプライチェーンの混乱や、ロシアとウクライナ間での緊張の高まりによる原油価格上昇がインフレを大きく押し上げています。また、政府の人的投資や気候変動対策を盛り込んだ2兆米ドル規模のビルド・バック・ベター法案もインフレ加速の要因となりえそうです。FRBは更なるインフレ抑制に向け、利上げ開始後にバランスシートの縮小も検討している為、今後はその縮小開始タイミングにも市場の注目が集まるでしょう。

ポイント③ 米10年債利回りは急上昇

今回のFOMCは、FRBが利上げ開始を意識するタカ派寄りの姿勢が示され、米10年債利回りは0.1%ポイント上昇しました。また、米国株も続落しました。足元で乱高下するマーケットの動揺を抑えつつ、様々な要因によるインフレの抑制の対応に迫られるFRBの金融政策には引き続き注目です。

米国の政策金利と10年債利回り

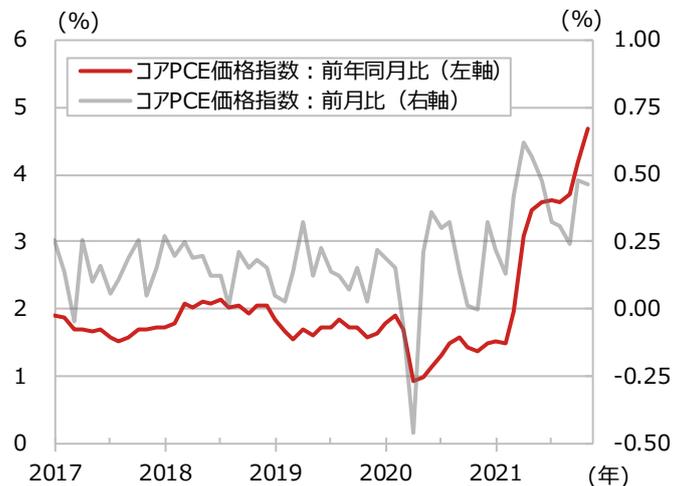


期間：2015年1月1日～2022年1月26日、日次

(注) FF金利：フェデラルファンド金利

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

米コアPCE価格指数の推移



期間：2017年1月～2021年11月、月次

(注) PCE価格指数：個人消費支出デフレーター、コアは食品とエネルギーを除いた指数

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

**重要
イベント**

- 1月28日 米個人所得、消費支出、消費支出デフレーター（12月）
- 2月1日 米ISM（サプライマネジメント協会）製造業景況感指数（1月）